

多方面からのご指摘、叱咤を受けながら久しぶりにひとりごとをお送りします。開院当初は月2章のつもりでしたが最近はめっきりとご無沙汰になってしまいました。以前にも書きましたが「院長の憤り」がこのひとりごとの発端になっています。

ということが始めます。先月外来で、職員どおしが患者さんに聞こえるような大きな声で言い争っていました。当院の職員は皆家族であるとずっと言ってきましたが、これは由々しきことです。

私は立場上、いったん口に出したことを変えたり、訂正しにくい状況にいつも立たされていきます。朝令暮改（朝言ったことを昼には改めること）と言う言葉があり、立場上これをしないといけない方もいます。状況が刻一刻と変わり行く場合、どんどん変更しなければ乗り切れません。私もある局面においては朝令暮改をしなければいけません、通常においては言った事に責任があり、言葉にする前に一歩引いてワテンポずらして言葉にしています。（長くやっていますのでほとんど間髪入れずに発しているように聞こえるとは思いますが。時に絶好調な時にはボキャブラ天国のように良い言葉遊びもできますが。）ケンカをする前にちょっと考え、相手の立場、状況を考えれば言い争う必要は無く、教育的立場で会話すれば済むことです。

二人羽おりというゲームがありますが、教育現場では手取り足取りも二人羽おりも必要です。激しく怒る方法は幼稚です。優しく教えたほうがうまく行きます。「教えたことしか知らない」が当院の教育方針です。学校で何を習ったんだ！は決してありえません。

5月から周産期センターがオープンしました。周産期とは妊娠後期から新生児早期までで、ハイリスク妊産婦、ハイリスク新生児を診ます。実際には、早産や重症合併症を持つお産、低出生体重児などが対象です。すでに約20名の母子が入院されました。（ちなみに第1号のお産は当院職員でした！おめでどう！）白川先生、齋藤先生、秋原先生、松本先生、6月から入職される長田先生ご苦勞様です。周産期センターの全面バックアップを本体の病院が行っていますのでさらに安心できると思います。

6月で当院も開院5年目を迎えます。麻酔科の山本先生、放射線科の武田先生も赴任されました。みんな心の良い人です。さらに当院の家族愛を支えていただけたと思います。